

立命館大学アート・リサーチセンター  
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点  
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」  
 2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2022年 月 日 提出

1. 研究課題名	
‘Cultural salons and the visual arts in Kyoto and Osaka, 1750-1900: Digitizing Kamigata <i>surimono</i> and paintings’ (上方文化サロンと美術 1750-1900 — 上方摺物と絵画のデジタル化)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
[ローマ字] Andrew Gerstle	[英語] SOAS University of London, Emeritus Professor
3. 研究分担者 (合計: 4名)	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
Dr Akiko Yano	British Museum Curator
Timothy Clark	British Museum Curator Emeritus
Akama Ryo	Ritsumeikan Professor
Nakatani Nobuo	Kansai Univ Professor Emeritus

4. 研究課題の概要 (300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>大英博物館、関西大学、個人所蔵のすり物、絵入り本、絵画を中心に、19世紀上方視覚芸術の共同制作(合作)を検証することを目的とする。美術・文学研究の方法論とデジタル人文科学の技術を組み合わせ、19世紀社会における芸術の役割を分析すること、研究に利用できる上方美術作品と作家・制作者名の持続可能なオープンデータベースを構築すること、京都とロンドンで展覧会を開催し、重要な出版物を作成することである。</p> <p>今年度は、ポール・ベリー氏の膨大な上方絵画コレクションを出来る限りデジタル化し、ARC データベースへのメタデータ入力を行う。ポール・ベリーコレクションは、昨年調査で、3500点を超えることがわかっており、継続的な基礎調査が必要であり、本研究ではその蓄積に努める。なお、本プロジェクトを足掛りとして、大規模な研究資金を獲得し、上記目標を実現したい。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>Covid 19 のパンデミックにより、日英双方への渡航が不可能であった。そのため、会議やセミナーはオンラインで実施した。したがって、申請した 2021 年度予算は、すべてポール・ベリー絵画コレクションの撮影とデータ入力に活用した。</p> <p>残りの 2000 点以上の絵画のデジタル化が残ったが、本研究を足掛りとして、UK-JP 国際交流研究の研究費が獲得でき、11 月から当該コレクションのデジタル化を継続、3500 点の作品のデジタル化を完了した。また、一部の絵師情報についても入力できており、本プロジェクトの重要な研究リソースとして活用が可能となった。</p>

6 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

(1) 図書

平井啓修、中谷伸生、明尾圭造、GerstleC. Andrew、矢野明子

『サロン！：雅と俗：京の大家と知られざる大坂画壇 = Salon culture and the pictorial arts of Kyoto and Osaka』, 京都国立近代美術館, 2022.3 ※展覧会図録

(4) その他

京都近代美術館「サロン！雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇」2022.03～05 展覧会開催